

2014年

秋号

第 184 号

飛鳥

かわら版

ASUKA KAWARABAN

発行所

飛鳥出版室

発行人 永野 正将

〒780-0945 高知市本宮町65-6

電話 088-850-0588

e-mail:info@asuka-net.jp

http://www.asuka-net.jp



高知自費出版フェアを開催します！
詳細は同封のチラシをご覧ください！

二つの巨大台風が去り、急激に秋めいてきました。
大雨による災害や、火山の噴火、自然の力を前にたくさん
さんの命が犠牲になりました。被害に遭われた皆様にお見舞い
申し上げます。
同時に、高知の治水能力の高さを痛感し、先人たちから受け継
がれてきた知恵と技術に深く感謝しました。

キルギスタンからコンニチハ	氏原名美	2
いろいろかいろ 圭	安藝真一	3
あすへの歩跡 3	大澤重人	4
文章カレレベルアップ講座	水木和香	5
寄稿「はちきんのハンガーストライキ」	坂本美智子	6
飛鳥の社窓から		7
おのころじま奮染記 2	田島征彦	8
催し物案内板		9
わが家の太郎	永野雅子	10

飛鳥「かわら版」は、あらゆる世代の自分史・個人誌作りを応援します。



キルギスタンからコンニチハ

ビックリ箱のような一日

氏 原 名 美



（著者：後列左から5人目）

「先生、火曜日のこと、忘れてないでしょうね」と、チヨバ。「あれ、何か話でも？ まさか教師じゃ食べていけないから辞めるなんて!?」と一瞬ドキリとしたが、「アーシヤとアセーリも一緒ですよ」のことで思い出した。三人で誕生日を祝ってくれるのだそうだ。三人とも私が卒業論文指導担当で五年前そろって卒業、そろって学科講師になった「同期の桜」だ。

アーシヤは一児の母。物静かでおっとりしている。研究もマイペースだ。アセーリは面倒見がよすぎて自分のことは措いて学生や友人の相談相手ばかりしているから婚活どころではない。チヨバも独身、機動力に優れた働き拔群なのに毒舌が玉に瑕。

そのせいで五年前採用するときも学部長と揉めた。いまだに向こう気が強くて年長教師の響（ひびき）を買っているが、姉御肌で学生たちに慕われている。正義感が強い闘う女性だから、本人も気づかないうちにずいぶん人助けをしている。私もつい半月ばかり前、あやうく詐欺に引っかかりそ

うだったのを、チヨバに救われた。

「小包、届いてますよ」と携帯に電話、「中央郵便局ですね、取りに行きます」と言っただけで切ろうとしたら、「いや、制度が変わったから税関そばのオフィスに来てくれ」と言う。

キルギス訛りでよく分からないロシア語だ。「受け取りたければ罰金を支払え、振込先を言うからメモしろ」と言っているらしい。

「罰金なんて聞いたことないですよ、税金振り込めってことですか?」と話していたら、そばで聞いていたチヨバがいきなり私の手から携帯を奪い取り、キルギス語でまくし立て始めた。相手も負けてはいないようだが話はすぐに終わった。「悪知恵働かせるより真つ当に働け、と言っやりました。先生、だまされちゃダメでしょ」と叱られた。

物忘れどころか判断力の鈍つてきた老いたる恩師を心配してか、チヨバが「火曜日、ちゃんと空けといてくださいよ」と念押しするから、神妙に「ハイ!」と頭を下げた。

さて火曜日の朝、出勤したら三階廊下に学生が大勢集まっているのが

階段下から見えた。何の行列? と思いが近づくとうめどうございます!」の大合唱。二年生が誕生日を祝って出迎えてくれたのだ。

その日は、会議から戻ると三年生が学科室に勢ぞろいして祝ってくれるわ、廊下に出たちよつとの間には四年生が祝いに来てくれていて驚くわ、サプライズの連続だった。「何度もビックリ箱を開けてドキドキしてる」と仕掛け人の三人娘に感謝して、夕食会場と時間を確認。アセーリが車で送ってくれることになり、一旦、先発隊の二人と別れた。

定刻どおり約束の日本食カフェ到着、外は明るいのに店の中は真つ暗だ。「また停電?」とぼやきながら暖簾（のれん）をくぐったとたん、「還暦、おめでとうございます」という声が出て、明りがつき、何人もの笑顔の輪に迎えられた。今や社会人として活躍中の「日本語の仲間」の輪だった。

仕掛け人である三人娘によると、サプライズ作戦は半年前から準備を始め極秘に進めてきたという。祝いに贈られたマック・ブックでしたためた本稿を、あの日への礼状としたい。

（うじはら・なみ／キルギスタン）



野遠見

安藝員一

いろろ
がいろ
その十五

野遠見と読む。芝居の背景に描かれた、野を遠く見る眺め^aの絵の事。大道具の書き割りの用語として誠に的確な表現。山を遠くに眺めると「山遠見」、海を遙かに望めば「海遠見」となる。芝居の景色を遠望する息遣いと言葉が連動し、漢字を見ただけで光景が浮かび上るといふ卓抜な舞台用語と、読むたびに感服する。

この言葉を知るより先に、「野遠見」に出会ったのは、戦後間もない時で、西畑人形芝居を観た夜の記憶。高知市の下知地区の多賀神社の境内に設えられた舞台に、群衆に揉まれ乍ら見た芝居は、壺坂靈験記・お里と澤市の物語^a。小学生とて筋書きの程はよく判らず、退屈もあったが、とり分け私の目を奪ったのは舞台と客席を取り巻く煌煌たる明るさで、わずか一年程前の空襲の灯火管制の暗がりから矢庭に引き擦り出された興奮の光の海。幾十もの百ワット電球の束に目も腹の中も熱くなった。舞台を見ると田と森と山の書き割りが背景にあって、畦道の向こうにいくつかの農家の屋根が並んでいる。芝居を横目で見ながら、あの茅葺きの家には、どんな人が住んでいるのだろうかと考え

る。親はいるか、兄弟はあるか、鎮守の杜の秋祭りはいつか、あの山には母があるか、茸もあるか……。進行する舞台の愁嘆場をよそに、動かない絵の中の空想に遊んでいた事を想い出す。

時、移って東京のほんものの、歌舞伎座でも、この癖は続いて、新たな発酵を繰り返す。忠臣蔵^a四段目で判官切腹の場の後に突然、清元の舞踊劇が出る。「道行旅路花笠」の、お軽勘平のあてやかな所作^a。前段、切腹に駆けつける由良之助の悲愴の後だけにこの幕が開いた瞬間の「野遠見」の明るさは素晴らしく、舞台全面にサイダーの泡が飛散するような爽やかさに、三昧の音が弾む。踊る役者がお目当ての者なれば、ただただ見惚れる所作の連続となるが、やや見弱りする役者なれば眠りながら、つと野遠見の景色をぼんやりと眺めることとなる。森のならびの聚落のたたずまい、人々のつき合はいかばかりか、町内会などあるのだろうか。道行と関係ない事を清元の音につれられてあれこれと思索している。ここでお軽と勘平が踊っている事を、あの家の村人は気がついていないのだろうか。

書き割り一枚の装置でなく、造作に入れ込んだ舞台となると、夢想は絶たれる。この道行に続く五段目の山崎街道惨殺の場は降りしきる夕立、雨露をずしりと含んだ狛師の蓑の重さ、暗闇を飛び交う火縄の赤、人殺しの羽二重に滴る水温の雫。と恐怖の設えが重なれば、野遠見の妄想の入り込む余地もなく視点は釘付けとなる。

「恋飛脚大和往来」で御法度の封印切りをした忠兵衛が、愛人の梅川と廓から逃亡。死出の旅の赴く先は生れ故郷の新口村。深深と降り積る雪の道、心中覚悟の二人の肩に黒い山波が凍てる空に浮かぶ。寄せては返えず鳴物の音に朦朧と目を凝らす夜更けの野遠見。木立のそばの一軒家に点る灯。その灯を見つめていると動かない筈の絵の障子が、つと、音もなく引きあけられ、その窓際に、あの西畑の人形芝居を観た小学生の私の顔が出て、客席の私を眺めている。雪、一段と降りしきる内やがて障子窓、音もなく締めまり私の顔が消える。舞台の三昧の音は、まだ鳴りひびいている。

(あきしんいち／高知市)

あすへの歩跡

大澤重人



ふじた・かたひろ

本名。1953年から95年まで小学や中学教諭。啄木同様、臨時教員として勤め始め、通信制の日大文学部を卒業し、教員免許を取った。最後は母校の大川村立川口小学校長（廃校）。短歌雑誌『海風』で「啄木短歌一首抄」を連載中。土佐町在住。【写真：大切にしている『石川啄木読本 臨時増刊文芸』（1955年刊）を手に】

3

啄木にはさまざまな謎がある。遺歌集『悲しき玩具』は、「がんど」か「おもちゃ」か。元来が凝り性で、調べを進めた。「玩具」と詠んだ歌が二首あるが、啄木はともに「おもちゃ」とルビを振っている。「本人は『がんど』と言っていないと思うんです」

復刻された直筆ノートを見せ、「年の割に枯れた文字と言われています」。二十六歳で夭逝した啄木の話を始めると、止まらない。「感傷性、哀傷性。貧乏、病氣、文学へのひたむきな情熱。心のひだに触れますね」と魅力を語る。「ただ、友人らから一、四〇〇円足らず（現在なら一、四〇〇万円以上）を借りるなど、借金を借金とも思っておらず、常識人じゃない」。それでも「私は擁護派です。自分と似ていないからこそ、憧れるのかもしれない」。好きな啄木の歌は――。

石川啄木の研究者 藤田兆太さん（80）

似ていないから憧れて

い玩具である」からつけた。

津軽の海を思へば
「これは妹を連れて北海道へ渡るときに歌で……」。一首だけでなく、解説は次から次へ。やはり止まらない。

啄木と父一禎の歌碑が二〇〇九年、父が亡くなった場所に近い高知駅前に誕生したが、記念講演に招かれた歌人の三枝昂之（なかつゆき）さんに疑問をぶつけた。三枝さんは「『おもちゃ』を使った啄木本人も、歌集名であれば、語感から『がんど』としたのではないか」。その回答には「納得です」という。

読本の啄木の顔はげるほど
山里の人
めくるよめくる

田所妙子さん主宰（当時）の高知歌人に月五、六首を出し、二年後には年間大賞の高知歌人賞に輝いた。一方で啄木の研究書を集め、上京すれば神田の古書街で探し回った。すぐに啄木の思想的転回論争に

（筆者）
おおざわ・しげと
毎日新聞大阪本社工程センター室長。
高知支局に支局長、次長として計五年半勤務した。著書に『心に咲いた花―土佐からの手紙』。

足らざれば、より熱帯を帯びるのか。生まれ育った大川村の小中学校には本がなく、文学に関心が持てる環境ではなかった。高一のとき、歌人の石川啄木（二八八六―一九二二）のレポートを書き、先生からほめられた。なぜ啄木だったのか、何を書いたのかも忘れたが、二十六歳で短歌を始めると、啄木へ一氣に傾倒した。渇きを癒すように。

盛岡市）も五回訪ねた。

花―土佐からの手紙』。

正確に確実に伝える 5W1H

水 木 和 香



新聞やテレビのニュースでは、社会に起きた出来事を早く正確に伝えるために、最小限のポイントを押さえた文章を作ります。逆に言うと、このツボを外さなければ、自分の言いたいことがきちんと伝わるということになります。

覚えやすいように、各ポイントの英訳の頭文字をまとめたものが「5W1H (い・だぶりゅー・いち・えいち)」です。

- ・ Who (誰が)
- ・ What (何を)
- ・ When (いつ)
- ・ Where (どこ)
- ・ Why (なぜ)
- ・ How (どのように)

順番は入れ替えてもいいのですが、この要素が入っていれば、内容は確実に相手に伝わります。新人記者が最初に徹底的に教え込まれるのが、この5W1Hです。ビジネス文書では、さらにWとHを一つずつ加えて「6W2H」が必要と言われています。

- ・ Whom (誰に)
- ・ How much (いくらで／どれだけ)

文章にする場合はもちろんですが、直接喋る場合やメールの時も、常にこれを頭に入れておいて応用すれば、自分の言いたいことが整理できますし、相手に「何が言いたいのか分からない」と戸惑われることもなくな

ります。

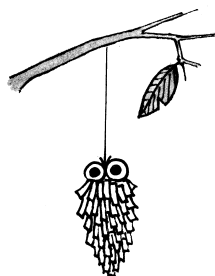
災害が発生して、正確な情報を素早く伝えなければならぬような緊急時も、普段から培っておいた「5W1H」伝達力が役立ちます。



みずき・わか
高知市在住。フリーライター、生涯学習コーディネーター。文章教室や漫画の原作教室など高知市を中心に開催している。

雑書き

◆前号まで連載していた「風の人、土の人」(全四回)。その舞台・四万十町窪川地区の二本のメタセコイアが十月十一日、切り倒されたという知らせが届きました。今夏に切られる予定が、度重なる台風や大雨により、今まで延期されてきていたそうです。連載の第三回を担当してくださった鳩オヤジさんが、「クラインガールテン四万十スタツフブログ」でその時の様子と共に、四季折々の美しいメタセコイアの写真をたくさん掲載されています。今はないその姿に切なくなりしました。切り倒されたメタセコイアは思い出を共有した人たちの



元へ、木工製品に形を変えて届けられるそうです。(上)

◆ネットより「おば」という立場は、子育てのいいとこ取りができる(確かに) 多少のしつけや教育をすることはあっても、可愛がることが中心で、忙しいときには構わないこともできる(確かに) 本当の意味で「子どもを持つこと」の経験や感動を得られるわけではないが親としての疑似体験ができる(確かに) このかわら版に何度か登場させておりました「甥っ子」も十二月で「二十歳」を迎え、来年は社会人。いつまでもこどもではない……甥っ子ガンバレ！ (中)

はちきんの ハンガーストライキ

坂本美智子



1994（昭和19）年11月第8中隊
筆者後列左端『自分史 あんなこと
とこんなこと』（2001年）より

時は昭和十九年、処は第十一海軍航空省の疎開先、広島県佐伯郡大柿町大君三交代制深夜業明けの朝八時。職札幌の横で守衛さんと呼び止められた挺身隊二十名。

「お前達はたるんどる」とさんざんに叱られた。昼夜二交代制の男女工員の出入りで混雑している中でのこと。敷地内で工場とは道路を挟み横が寮で食事は三度とも寮でとっていた。事は昨夜真夜中の昼食の後、灯下管制の薄暗い部屋では何も出来ないし横になって食事当番が食器の洗浄消毒をして帰るのを待ち、出かけるのが常なのだが、まだ当番も帰らぬ時、窓をダンダン叩いて守衛さんがすごい剣幕で怒るので訳が解からぬまま飛びだし仕事についた。休憩時間が過ぎていたと言うのである。寮へ帰って、一同恥かかされた

大憤慨。今日から食事はせんと言うことになった。

さて時間になると手を洗い時計の下の集合場所へ行く人が見えた。その時になって血の巡りの悪い私だが、今朝の騒ぎを思い出すと、人の気持ちなんてとそれが悲しくてハンドルを離さなかった。工場内は機械灯だけなので誰が仕事中心か解かる。指導員が「飯ぞ、食って来いよ」と声をかけてくれたら途端に涙が溢れた。

泣き泣き仕事をしたのは同室の八名。三日目の昼、寮の副舎監が部屋へ来てくれた。「七室の者じやろ、食事もせんと仕事しよるんは、現場の時計が遅れていたのが判り、調べもせず悪かったと守衛が謝りよる。許してやりんさい、仕事ぶりは組長、指導員の大鼓判、工場長、係官も体調崩さないかみんなが心

配してくれよる」との事。

事が判ればハチキンはどうケロリカラリ。かえってその時の言葉「海を見よ北はアリユーシヤン、空を見よ南はニューギニヤ、皇軍の将兵が届かぬ飛行機に悔し涙を流しよるんだぞ」と言うのは名文句だったと賞賛する有り様。

戦後、夫婦同伴の食事会の時などハチキンのいくつかの武勇伝に花が咲いたが、次第に人が減りいつか会も途絶えた。先月高知市の施設へ入居中の一人を訪ね、久々に昔話に笑い転げたものの、こんな話判り合えるのはあんだとわたしだけになったねえと最後はしょぼん。それでもなおこんな老いの繰り言聞いてくれる殊勝なお人は居らんろうかねえとまだ話足りな

いハチキン二人の現在である。
（さかもとみちこ／須崎市）

あなたのご寄稿をお待ちしています

2015年夏、終戦から70年。

大きな節目を前に私たちに何ができるでしょうか。悲惨な歴史を繰り返さないために、語り継がなければなりません。あなたの戦争体験をお聞かせください。歴史の大綱に残されていないような、戦中の小さなできごとをお寄せください。

お葉書 〒780-0945
高知市本宮町65-6
飛鳥出版室 宛

メール info@asuka-net.jp

FAX 088-850-0599

「第3回ものづくり総合技術展 NEXT」

に出展します！

飛鳥が現在取り組んでいるARアプリを紹介するブースを出展いたします。

県内のものづくりに関わる企業が122社大集結！どなたでもお気軽に「印刷物が動く！」不思議な感覚を体感しにお越しください！

第3回 ものづくり総合技術展 NEXT

11月20日(木)・21日(金)・22日(土)

10:00~16:00

入場無料

高知だばさんセンター
(高知市布師田3992-2)



土佐うまいもの市
も同時開催！

社長第三子誕生！！

2014年8月19日

永野家に待望の第三子が誕生しました！

名前は

「愛夏(あいか)」ちゃん
元気いっぱい育ててね！



iOS



Android



COCOA R2で愛夏ちゃんの動画を見よう！→

高知県内の自費出版に関わる企業が一堂に会し、自費出版フェアを開催いたします。

当日は元・文藝春秋各誌編集長の高橋一清氏による記念講演もあります。その後各社ごとの相談会も実施します。ぜひこの機会に、自費出版に関する疑問を解消してください！

〈相談会参加企業(順不同)〉
飛鳥、川北印刷、高知新聞
総合印刷、弘文印刷、西村
謄写堂、リーブル出版

高知自費出版フェア

11月22日(土)

13:00~16:00

高新文化ホール

入場無料(定員150名)

お薬書にて事前申込みが必要です。お申し込み・お問い合わせは下記まで。

〒780-0084

高知市南御座6番19号

関株式会社 自費出版係

TEL.088-883-0147

※詳しい内容は同封のチラシをご覧ください

永野雅子常務 印刷振興賞を受賞しました

9月印刷の月、印刷産業発展の功労者として31人1団体が表彰されました。永野雅子常務取締役は、長年当社の企業経営に携わる傍ら、日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会の理事、四国地区の副理事長として組織基盤づくりに尽力し、その功績を認めていただきました。

表彰された中で女性はただ一人。これからも飛鳥の女性社員の目標として輝いていてくださいね！



おのころじま 犬舎

ふんせんき

田島征彦

2. あなたに犬は飼えませんか！

高知の吾川郡芳原村に住んでいた小学生時代から、ウチには犬や猫がいた。やがて、高知を離れ、結婚して、京の口丹波の山奥で、三人の子どもたちを育てる頃にも、犬と猫がぼくたちの仲間だった。子どもたちが家を出て、二人きりになると、犬と猫なしの生活は考えられなくなってしまった。

淡路島へも、黒猫とビーグルを連れて引越してきた。ビーグル犬のペペも、島へ来て七年目に、天寿を全うして逝ってしまった。毎朝、愛犬と一緒に散歩するのが、楽しみであり、健康に欠かせない。だから、悲しさをのり越えて、散歩を楽しむ相棒を探し始めた。

淡路島の津名にある、県立動物愛護センターで、捨て犬を愛犬家に仲介してくれると言うので、

英子と出掛けてみた。

センターには、あいにく、ちよつと育ち過ぎた犬しかいなかった。しかし、引き取ってもらえるのを、悲しそうな様子で待っているみたいだ。どの犬も、所員には良く馴れているのに、僕たちを、ちよつとイヤな目付きをして見ている。所員の男性と事務所で面会した。犬を飼った経験など、いろいろと質問された上、もし気に入った犬がいた場合、何度か、センターを訪れて、犬との面会を重ね、目出たく連れ帰る許可が出ると、月に何度か、所員が訪問して、情況を見せてもらいますとのことだった。犬をもらうのは簡単なことではないみたい。

そして最後に、ぼくたちの年令を問かれた。当時ぼくは六十八歳、英子は六十歳だった。

「あなたたちが、犬より先に亡くなった時、代わって世話をしてくれる人はありますか？」

そんなことは考えていなかった。

「あなたたちは、新しく犬を飼ってはいけません。」

ぼくだって、

あんな目付き

の犬と、散歩

したくはあ

りません。



そんな時、東浦から、純血ビーグル犬（雌）が近所のラブラドルレトリバー（雄）の侵入により、雑種の仔犬が五匹も生まれて困っているという情報が寄せられた。

英子が黒い仔犬を抱いて帰ってきた。ボン（bon 仏語）と名付けた。身体割に、脚が長い。少し成長すると、可愛さが失われ、ちよつと不細工である。（顔の割に眼が細い）長い脚でヨロヨロ歩き頼りない。道の端で、溝に落ちて、恥ずかしそうにしている。脚が立派になって、大型に近い中型犬に育つと力が強そうだ。

ところが、ボンは優しく賢い。躰も調教もしないのに、一緒にいる多くの心を思いやってくれる。姿はあまり似てないがラブラドルレトリバーの性格を充分持っている。ペペは、散歩の途中でぼくが立ちションをしても、無視して、引っぱるからズボンを濡らすことは度たびだった。ボンは、チャックを下ろしかけただけで止まってくれる。

今まで出遇ったことのない最高の相棒だ。

来年から、お互い後期高齢者だが、ますます元気で楽しい人生を生きてゆこうね。ボン！

たじま・ゆきひこ（染色家）

大阪府堺市出身。少年時代を高知県で過ごす。京都府立美術大学染色図案科専攻科修了。代表作の『じごくのそつべえ』で一九七八年第一回絵本にっぽん賞受賞。

※「おのころじま」は淡路島の古代のよび名

高知での展覧会開催決定！ 詳細は次頁をご覧ください

催し物案内板

〈10月～1月〉

タカハシユミコ展

と き 開催中～11月30日(日) ※毎週月曜休館
9:00～17:00 (入館は16:30まで※最終日は15:00まで)
ところ 奥物部美術館
入場料 一般200 (100) 円・()内20名以上団体料金
長寿手帳提示半額、障害者手帳提示無料、高校生以下無料

お問い合わせ先

香美市立美術館

TEL 0887-53-5110

e-mail bijyutsukan@city.kami.lg.jp

長宗我部氏と宇喜多氏

天下人に翻弄された戦国大名

と き 開催中～12月7日(日)

※「宇喜多氏」編のみ11月10日(月)は展示替えのため
1階休室

9:00～17:00 (入館は16:30まで)

ところ 高知県立歴史民俗資料館

観覧料 大人(18才以上) 510円(20名以上団体料金 410円)

※高校生以下、高知県・高知市長寿手帳所持者、療育手帳・
身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康
手帳所持者とその介護者(1名)は無料

香美市立美術館開館20周年記念展

ひろがる表現の世界

と き 11月1日(土)～12月14日(日)

9:00～17:00 (入館は16:30まで) ※毎週月曜休館

ところ 香美市立美術館

入場料 一般 310円(20名以上団体料金 150円)

※長寿手帳提示150円、身体障害者手帳提示無料、高校生以下
無料

関連企画 館長または学芸員による作品解説

【とき】会期中毎日曜日14:00～

【ところ】展示室(※入場料要)

第32回 高知大学吹奏楽団定期演奏会

と き 11月8日(土)

開場16:30/開演17:00

ところ 高知市文化プラザかるぽーと 大ホール

入場料 無料 ※但し、入場整理券をお配りしています

第68回 秋季 いけばな県展

と き 11月8日(土)～11月9日(日)

8日 10:00～18:00/9日 10:00～17:00

ところ 高知市文化プラザ かるぽーと7階

第1・第2 展示場

入場料 前売 400円/当日 500円

第32回 硯田社書展

と き 11月14日(金)～11月19日(水)

10:00～18:00 (最終日は17:00まで)

ところ 高新画廊

頌春 書と表装展

書：岡崎 桜雲 表装：大岸彩雲堂

と き 平成27年1月6日(火)～1月14日(水)

9:00～17:00 ※毎週木曜休館

ところ ほのまる ハート・アート・ギャラリー

平成27年 県展書道 無鑑査展

と き 平成27年1月4日(日)～1月10日(土)

10:00～18:00 (最終日は17:00まで)

ところ 高新画廊

田島征彦さんの展覧会が 高知で開催されます！

染織造形

型染・絵本原画

今井誠志・田島征彦 展

ところ 星ヶ岡アートヴィレッチ

と き 2014年11月2日(日)～16日(日)

10:00～18:00 (休館日：11日(火))

観覧
無料



●とさでん交通バス停「横内」下車 徒歩6分

印刷屋さんの
「すったもんだ」

私ごとで恐縮ですが、8月に3人目の子どもを授かることができました。長女は11歳、次女は7歳とだいぶ間が開きましたが、私自身も小さい頃から兄弟のいることの喜びや有り難さを沢山感じる中で、結婚当初の「子どもは3人は欲しい」という夢を実現することができました。

支えてくださるすべての皆さんに感謝しつつ、この子達が、安心して暮らせる社会、経済、環境を築き、守っていけるよう『ハチドリのひとしずく』のように、これからも自分にできることをしっかりとやっています。

ちなみに、3姉妹となり日々賑やかです（笑）

（永野正将）

© 印刷屋さんの「すったもんだ」：<http://asukainsatsu.blog10.fc2.com>

わが家の太郎

台風

永野 雅子



今年の八月、大型台風の到来とあって、朝から天気予報を聞きながら片付けをしていた。いつもと違う雨音にだんだん不安になってくる。

過去に床上浸水を経験しているので、その時のことを思うとじつとしていられない。カーテンを結ぶ。鉢植えや床に置いたものを台や机の上に乗せる。食器棚や引き出しの下段のものも全部取り出した。ラジオでは刻々と緊急事態の様子が伝えられる。息子からは

「途中まで来たけど、道路が川のようになって進めない」と電話。仕方なく引き返すという。

そこへご近所の奥さんが

「永野さん、水がそこまで来よう。畳を上げよう」

「えーっ！ そんな…」と、私。

結局、二人で神壇を抱えて移動し、畳も床板も襖も上げるのを手伝ってくれた。

やがて一人になると、床下に水がひたひたと入ってくる。これ以上来たらどうしようと思わなくなる。部屋にはビデオやアルバムの入ったロッカーがある。これを濡らすわけにはいかんと、又力一杯持ち上げて移動。

やれやれと思うまもなく今度は雷の大音響。

太郎が飛び上がったかと思うと、狂ったように外へ出て大雨の中をびしょぬれになりながら、庭を右往左往。

「太郎ちゃん、入っておいで」

と、好きなおやつをかざしながら声をかけるが、見向きもしない。とうとうこちらも濡れになりながら首輪を掴んで家に引き入れる。

縁側にある柵を外してやると飛び込んできて、部屋の中を必死でうろつく。

静かになったので見てみると、

先程柵の下段を空にした場所にもぐりこんでいるではないか。雷がよほど嫌いなのか、怖いのか、「ドーン！」と鳴るたびに震えて出てこない。

結局その夜は、雷が鳴る、雨音が激しくなるたびに二階から降りて来て、太郎の様子と、床下を覗いて眠った気がしなかった。

そして台風一過、無事に過ぎたことに感謝しながら、さて片付けようと、荷物を抱えるが持てない。これを私は抱えて上げたのかと、我ながらオドロキ。

「火事場の馬鹿力」というけれど、いざとなったら無制限が出るものよと感心するものの、事が過ぎればもうその力は出てこない。

もういいわ、台風シーズンが終わるまでこのままにしよう。自分を納得させるのはカンタン！

（ながのまさこ／飛鳥常務取締役）